

社会参加先進国へ

サービスグラント 年次報告書 2015-2016

[2015年4月1日 – 2016年3月31日]



VISION

社会参加先進国へ

MISSION

プロボノを進化させる



- 市民が、自分自身の可能性を最大限に生かして社会参加している
- 企業が、社会課題解決と、自社のメリットとを両立させる方法を見出している
- 行政が、市民の知恵を取り入れ、持続的に改善できる仕組みを備えている
- 誰もが、人の役に立つ喜びを感じられる機会が、すぐそこにある
- 世界中の課題解決手法を取り入れ、常に世界のより良い方法を探し求め続けている

それが、私たちが考える、私たちが目指す、社会参加先進国です。

2005年、サービスグラントは、日本における「プロボノ」のフロンティアとして、産声を上げました。それから約10年が経過し、プロボノは、ビジネスパーソンの社会貢献手法として、着実に浸透しつつあります。

サービスグラントが、この10年間に培ってきたもの。それは単に、プロボノプロジェクトの運営という狭い範囲の個別手法に留まるものではありません。

立場の異なる複数の主体が、共通の目的のもとに協働し、前向きな成果を生み出すに至るまでに、何が求められるのか。どのような知識が求められ、どのような人が力を発揮し、どのような体制を組むことがより現実性を高められ、どのような手順で進めることが効率性を実現でき、どのようなコミュニケーションのスタイルが求められるのか。

この普遍的な問いの答えに、私たちの知見は、つながっていくはずです。

サッカーをする人が、ボールがあればだれもが一緒になってプレーを楽しめるように。
音楽を愛する人が、国を超えてアーティストにまつわるエピソードを語り合えるように。

社会課題の解決においても、基本的な考え方や行動様式が社会全体で共有され、そこに集まる人たちが、立場の違いを尊重しながら、当たり前のように協働できる社会。サービスグラントは、日本を、世界を、社会参加先進国にすることを目指して、挑戦を続けます。

代表メッセージ

2015年から2016年にかけて、サービスグラントは大きなチャレンジの時期、新しいステージに上るかどうかを迫られるような時期に差し掛かっているように感じています。

これまでのサービスグラントの活動を振り返る中で、2005年から、任意団体として1年に数件程度というごく小規模な活動として取り組んできた「草創期」、2010年の“プロボノ元年”以後、プロボノという言葉の広がりとともに、プロボノワーカーが飛躍的に増え、企業・行政との連携などがスタートした「成長期」を経て、これからは「展開期」と名付けるのが相応しい時期が訪れるかどうか。



ひとつの象徴的な動きが、プロボノプロジェクトの運営を担う“インターナルボランティア”の仕組みづくりです。

“インターナルボランティア”とは、プロボノワーカーの中で、さらに一步踏み込んでサービスグラントの組織運営そのものをサポートするプロボノワーカーのことです。

なかでも「パートナー」と呼ぶコアメンバーのみなさんは、これまで事務局が行ってきた支援先の審査・採択の決定などに深く関わり、プロジェクトの立ち上げ、進行サポート、完了までの一貫した流れを支えていただく役割を担っています。さらに、プロボノワーカーの学習・交流の場ためのづくりや、サービスグラントの新事業企画など、新しいアイデアと実践が動き始めています。

「事務局が運営するプロボノ」から「プロボノが運営するプロボノ」へ。

こうすることで、プロボノの取り組みがプロボノワーカーの有志によって自走していくようになれば、いままで以上にプロボノが身近で参加しやすいものになっていくはずです。

また、2015年度に東京都福祉保健局との協働でスタートした「東京ホームタウンプロジェクト」は、来るべき超高齢社会に向けてプロボノができることが何かを問われるプロジェクトと言えます。NPO・市民活動全般に対する支援策としてのプロボノから、高齢化という一つの社会課題・テーマに向けた解決策としてのプロボノへ。

高齢化の問題に限らず、特定の社会課題・テーマにプロボノとして関わることによって、具体的で、焦点の絞られた成果を生み出していくことに、今後も挑戦していきたいと思います。

さらに、地域の展開として、これまでに連携した地域において、2016年度以後、地元でネットワークを持つ中間支援組織に向けて、プロボノコーディネートのための技術・ノウハウを移転し、各地で、それぞれの団体がプロボノプログラムを力強く運営していくことができるような取り組みを始めていきます。

プロボノプロジェクトの運営を直接手掛けることから、他団体によるプロボノの運営ができるようにサポートすることへ。

つまり、「Do」から「Enable」へ。

数が増えても、担い手が多様化しても、プロボノが、そこに集まる様々なステークホルダーにとって、成果があり、学びがあり、有益だと思える場であるためにできることは何か。サービスグラントには、新しい挑戦が、次々と待ち受けています。

2015年度の1年間で

86件のプロボノプロジェクトを運営

P6 インパクトある支援を目指して



昨年度から+410人増の

累計 **2,794人**のプロボノワーカーが登録

P8 社会にビジネスに役立つ経験を



企業・行政・財団と

59件の協働プロジェクトを実施

P10 広がるパートナーシップ



今年度の支援先一覧

【東京エリア】
(東京都・神奈川県・千葉県・茨城県・埼玉県)

NPO法人ICT救助隊
新井の介護を考える会
NPO法人荒川区高齢者クラブ連合会
梅島うたの会
NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会
「映像のまち・かわさき」推進フォーラム
公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座
NPO法人江戸川・地域・共生を考える会
学童ホール支援グループ
NPO法人風のやすみば
要町あさやけ子ども食堂
NPO法人鎌倉てらこや
NPO法人KAWASAKIアーツ
NPO法人川崎介護福祉士会
かわさきキネマサークル
一般社団法人かわさき市民しきん
NPO法人北区精神障害者を守る家族会 飛鳥会
NPO法人キッズドア
NPO法人Cleeeeen
子育て交流ひろば立川 おもちゃ図書館ばれっと
NPO法人山友会
白幡台地区コミュニティ交通協議会
NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ
公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団
NPO法人健やかネットワーク たまりば・とうしん
NPO法人聖地のこどもを支える会
一般社団法人全国老人給食協力会
太きみまもりネットワーク
社会福祉法人 大洋社 ひまわり苑
NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパン
中高年ミュージカルパフォーマンスグループ たつきい
NPO法人つくばアグリチャレンジ
NPO法人手をつなご
NPO法人トモニ
NPO法人日本民家再生協会
八王子高齢者活動コーディネーター会
初台生活学校
NPO法人ひの市民活動団体連絡会
NPO法人ブラチナ美容塾
NPO法人補助犬情報センター
NPO法人マタニティハラスメント対策ネットワーク
街のお助け隊コンサルジュ
NPO法人ままとんきっず
NPO法人まめな人生
みたか・みんなの広場
見守りネット・結サポートセンター
NPO法人むべの会
NPO法人モンキーマジック
矢野口地区介護予防ラジオ体操
NPO法人楽の会リーラ
社会福祉法人楽友会
NPO法人ワーカーズ・コレクティブ キャンディ
一般社団法人わかちあいプロジェクト

【関西エリア】
(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県)

旭区大宮校下地域活動協議会
旭区清水校下地域活動協議会
公益社団法人アジア協会アジア友の会
NPO法人アンビシャス
生野区北鶴橋まちづくり協議会
NPO法人ウィメンズネット・こうべ
NPO法人NPOかんなびの丘
一般社団法人ぐるり
此花区梅香地域活動協議会
NPO法人里山倶楽部
NPO法人シヴィル・プロネット関西
NPO法人児童虐待防止協会
NPO法人線維筋痛症友の会 関西支部
NPO法人棚田LOVER's
NPO法人西淀川子どもセンター
NPO法人日本マルファン協会
社会福祉法人北摂杉の子会
NPO法人まちづくりネット熊取
港区港晴地域活動協議会
港区南市岡地域活動協議会
NPO法人南河内こどもステーション

【その他の地域】

NPO法人ウルトラスポーツクラブ
キャピタルホテル1000
気仙沼海鮮市場「海の市」
しゃあまけ笑会
公益社団法人sweet treat 311
NPO法人砂浜美術館
公益社団法人被害者支援センターやまなし
一般社団法人南三陸町観光協会
一般社団法人南三陸町復興推進ネットワーク
ロッツ株式会社

1 | インパクトある支援を目指して

プロジェクト
実施件数

86件

[前年度比+13件]

長期
46件

短期
40件

支援先ニーズに応えプロボノプログラムを多様化

日本におけるソーシャルセクターの成長・発展にしたがって、プロボノに対する支援ニーズが多様化する中、サービスグラントでは、提供するプロボノプログラムを多様化させています。

従来の長期プログラムに加えて、新たに短期プログラムを加え、合計20以上のメニューを提供。団体内部の課題の棚卸や優先順位付けを行う「課題整理ワークショップ」や、「Facebook活用」「クラウドファンディング企画」など新規性あるプログラムを取り入れています。

	長期プログラム	短期プログラム
情報発信	ウェブサイト 印刷物 営業資料 マーケティング基礎調査	Facebook活用 ウェブサイト改善提案 チラシ・ポスター制作 クラウドファンディング企画 営業資料ブラッシュアップ 外国語翻訳
組織運営	プログラム運営マニュアル 業務フロー設計 寄付管理	クラウドツール活用 税務・経理相談 法務相談
事業戦略	事業計画立案 事業評価	課題整理ワークショップ スペース活用会議 アンケート活用入門



稲城市矢野口地区で行われている介護予防の活動について、初めての試みとして「事業評価」の支援を提供しました。



大阪で開催されたプロボノ1 DAYチャレンジのひとコマ。

長期プログラムで46団体を支援

長期プログラムとは、プロボノワーカー5-6人によるチームを編成し、1人につき週5時間を目安に、3-6カ月間にわたって支援先の基盤強化につながる成果物を提供するプログラムです。支援先に対して、ウェブサイト、印刷物、事業計画立案などの成果物を提供しており、サービスグラントが活動開始以来続けてきた、サービスグラント定番のプログラムです。

今年度は46件のNPO法人・地域団体・社会起業家等に対して、長期プログラムによるサポートを提供しました。



川崎市と協働で実施した短期プログラム「プロボノサマーチャレンジKAWASAKI 2015」では、約1カ月でWixウェブサイト制作やクラウドファンディング企画を支援しました。

短期プログラムで40団体を支援

長期間のコミットメントが難しいプロボノワーカーや、まずは一度プロボノによる支援を体験してみたいNPOなどを対象に、比較的軽めの負担で参加できる短期プログラムを導入しています。短期プログラムには、比較的作業ボリュームの小さい成果物を本番わずか1日で実現する「プロボノ1 DAYチャレンジ」などがあります。

今年度は40件の団体に対して短期プログラムによるサポートを実施し、長期プログラムの支援と合わせて、幅広い団体の支援を実現しました。

プロボノ 1 DAYチャレンジ

プロボノを始めてみたい、でも、長期間のコミットメントは難しい。そんな声に応えて、本番1日で参加できるプロボノ体験企画が「プロボノ 1 DAYチャレンジ」です。

2015年度は、10月24・25日に東京で、また10月31日に大阪で、計3回連続でプロボノ 1 DAYチャレンジを実施し、合計114人が参加、26団体を支援しました。プロボノ 1 DAYチャレンジ参加者は、本番約1カ月前に開催される事前オリエンテーションに参加し、チームごとに支援先のイベントやボランティア活動に参加したり、インターネットで支援先や関係するテーマについて調査をしながら、本番に向けて準備を進めます。

本番当日は、まる1日を使って支援先の事務所・活動拠点を訪問し、プロボノワークを実施。課題整理ワークショップ、チラシ作成、Facebookページの立ち上げ、簡易なウェブサイト作成など、それぞれの団体のニーズに応える成果物を見事に完成させました。



ママボノ

ママボノは、育児休業や出産を機に退職をした女性たちによるプロボノプロジェクトです。育休からの復職にあたって、職場での働き方や家族との役割分担などに不安を感じる女性が多い中、ママボノでは、復職前にプロボノ活動を通じて仕事の勘を取り戻すこと、そして、会社では出会わないNPOや他のメンバーとの出会いを通じて、自身の世界を広げることで、子育て中の女性のエンパワメントを目指しています。

参加者からは「新たな知見や仕事の進め方など得られることも多く、大変勉強になった」「3年後、5年後にこうなりたい! と考える方達に出会えた」などの声が聞かれました。

熱意のあるチームによる成果物は、支援先にとっても非常に高い満足につながっています。



聖地のこどもを支える会さんとママボノメンバー、お子さんたち

ふるさとプロボノ

東京・大阪以外の地域から寄せられるプロボノへのニーズに応えるため、プロボノワーカーによる現地への訪問・滞在を含む、遠隔地支援型プロボノプログラムが「ふるさとプロボノ」です。

「ふるさとプロボノ」では、日本の各地の地域課題に直接触れながら、課題解決に向けた提案を行います。2015年度は、宮城県県の1団体、山梨県の1団体、鳥取県の2団体を支援しました。

プロボノチームは、大半の活動を東京・大阪で行いますが、現地とはSkypeを活用して打ち合わせをするほか、現地を訪問し2~3日間の滞在中に数多くのヒアリングを行い情報収集をする活動を取り入れています。現地の人々とのふれあいやプロボノチームの仲間意識が深まる、ふるさとプロボノならではの醍醐味があります。



しゃあまけ笑会さん（鳥取県倉吉市）とプロボノワーカー

2 | 社会にビジネスに役立つ経験を

多様化するプロボノワーカー

サービスグラントにスキル登録をいただいたプロボノワーカーは、2015年度新たに410名を数え、累計登録者数も2,794名に上りました。サービスグラントでは、今後も、ご登録いただいたみなさまにできるだけ多くプロボノへの参加機会をご提供することに挑戦していきます。

ご登録いただいているプロボノワーカーの内訳について次のような傾向が見られます。

(1) 社会人年数別

プロボノワーカーとしてスキル登録した人の中心は入社5～20年程度の世代で、全体の約半数を占めます。

あわせて、20代の若手社会人のご参加や、50代以上のご登録も広がっており、プロボノのすそ野が着実に広がりを見せています。

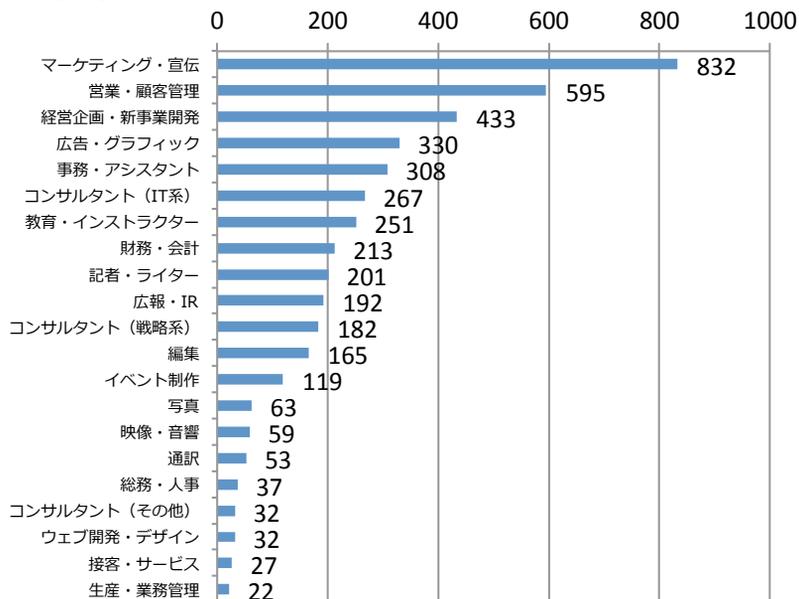
(2) 男女別

男女比については、過去数年間ほぼ同じ比率を維持しており、男性の登録者が59.1%となっています。

(3) 職種

マーケティング関連、営業職に続き、2015年度は経営企画、新規事業開発や広告・グラフィックなどに携わるプロボノワーカーの登録が目立ちました。

その他にも、一般的な事務職から、デザイナーやコピーライターなどのクリエイターに至るまで、幅広い職種の皆様から多数のご登録をいただいています。

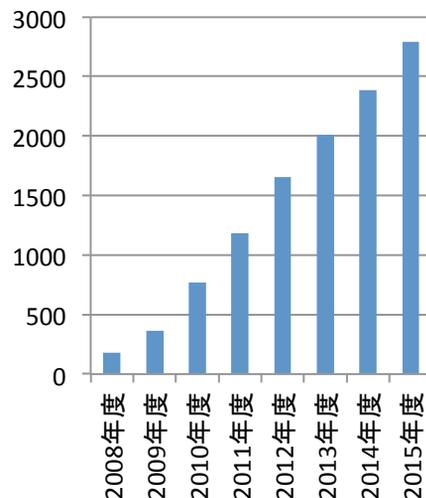


【参考】職種別登録数（2015年度） ※複数回答あり

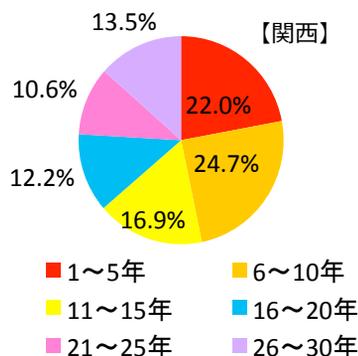
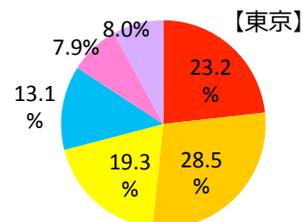
プロボノワーカー
スキル登録者数

2,794名

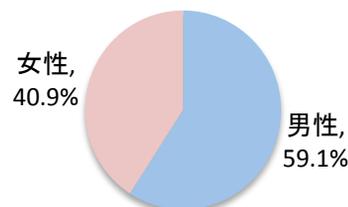
前年比
+410名



(図1) スキル登録者数の推移



(図2) 社会人年数別登録者の比率



(図3) 男女別登録者の比率

サービス Grant 友の会 スタート！ プロボノを進化させる サービス Grant への“もっと深い”関わり方

サービス Grant のプロボノを経験したら、プロボノが面白くなって二度、三度と繰り返しプロボノに参加してみたくなった。はじめは一メンバーとして参加したが、2回目はプロジェクトマネジャー、その次はアカウントディレクターを担当し、と様々なポジションに挑戦してきた。

サービス Grant のプロボノワーカーのなかには、このように継続的にプロボノプロジェクトへ参加し、そのたび、サービス Grant や支援先 NPO との関わりを深める方がいます。なかでも、サービス Grant という組織やプロボノの仕組みそのものを一緒に支える仲間として、サービス Grant 自体の在り方を考え、未来に向けた企画を提案し、具体的な施策を実行したいと名乗りをあげてくれる方も登場してきました。

そこで、サービス Grant では、個々のプロジェクトに参加するプロボノワーカーとしての立ち位置からさらに一歩進めて、サービス Grant の運営を応援したり、仕組みづくりに協力したり、新しい企画を提案し実行したりするコミュニティ「サービス Grant 友の会」を創設。

「友の会」のメンバーは、プロボノワーカーとして参加した経験をもとに、自分の貢献したい方法で、サービス Grant やプロボノプロジェクトのよりよいあり方を目指して、楽しみながら関わっていただいています。



説明会参加者へチューターとして経験談をお話



プロボノ経験者同士のエンカレッジ・つながりの場の創出



PM勉強会の運営



パートナー月例会の企画・運営

サービス Grant 友の会 主な活動内容

●各種イベントや説明会等のサポートメンバーとして参画

説明会やイベント等で、初めてサービス Grant やプロボノに触れる参加者に対し、「チューター」として参画し、プロボノの魅力や注意点などを、経験者としての生の声を伝えています。

●勉強会・交流会の企画・運営

アカウントディレクターの月例会や、プロジェクトマネジャー対象勉強会など、プロジェクトどうして横につながる機会、同じポジションならではの悩みを共有する会が経験者によって企画・運営されています。

●タスクフォース型の各種改善・新規企画提案の募集開始

サービス Grant の運営やプロボノプロジェクトのあり方に対する、各種改善や新規企画の提案募集を開始しました。2016年明け早々の呼びかけに、4名のパートナーから企画書が提出され、理事等によるオーソライズを経て、約6か月間のタスクフォースとしての実施が決定しました。

3 | 広がるパートナーシップ

協働
プロジェクト

59件

企業 18件
行政 41件

【1】企業との協働

サービスグラントでは、企業のCSR・社会貢献の方向性や、社員の皆さまの経験・スキル、支援先NPOのニーズ等を踏まえて、企業の特徴が活かされるプロボノプログラムの運営サポートを行っています。

【協働パートナー企業のご紹介】（※掲載順は、協働開始時期の順です。敬称は略させていただきます。）

日本電気株式会社（NEC）

社会起業家を対象に、社員がプロボノによる支援を行う「NECプロボノイニシアティブ」の第6期が行われました。今期は社員29人が参加し3団体を支援しました。

陸前高田市を拠点に「訪問リハビリ」という新形態の事業を通じて要介護高齢者の機能回復やQOL向上に取り組むロッツ株式会社には、中小企業診断士の資格を持つメンバーを中心に詳細な事業分析を展開。地域のニーズに応え、作業療法士等の担い手を拡大するためのリクルーティング施策を提案しました。

パナソニック株式会社

2015年度は、関西・西日本エリアの3団体を支援する長期プログラム、被災地で5団体を支援する短期プログラムを実施しました。

そのうち1件は、大阪に勤務する社員チームによるプロボノチームが、高知県黒潮町のNPO法人砂浜美術館のサポートに取り組みました。被災地支援としては、東京の社員を中心に、1泊2日で行う短期プログラム「プロボノWEEKENDチャレンジ Fukushima 2015」を実施しました。

また、プロボノウィーク期間中には、プロボノの最新情報をお届けする「プロボノフォーラム OSAKA2015」をサービスグラントと共催しました

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

前年度から引き続き、SMFGによるグループ横断型のプログラムとしてプロボノプロジェクトを実施しています。本年度は、「マーケティング基礎調査」、および、「事業計画立案」の2プログラムを新規に展開し、東京で2団体を対象に、課題解決や運営改善につながるサポートを提供しました。

また、プロボノ体験企画「プロボノ1DAYチャレンジ」へ、企業チームとして東京・大阪で各1チームが参加し、地域団体の課題整理やアンケートの分析や活用法についての提案を行いました。

ジョンソン・エンド・ジョンソン 社会貢献委員会

ジョンソン・エンド・ジョンソンでは、社員有志による社会貢献委員会を中心に社会事業や福祉に貢献するための活動を行っています。普段から資金面で非営利団体に支援していますが、新たにプロボノ支援を活用し、ジョンソン・エンド・ジョンソンの社会貢献活動の成果をよりステップアップすることができました。また、これら活動を自主的に運営できるようサービスグラントが支援しました。

三菱商事株式会社

昨年来からの関係者によるプロボノトライアルから、今年度は三菱商事全社員を対象としたワンディワークショップを実施しました。三菱商事復興支援財団の支援先三社を対象に社員18名が参加しました。多くの社員から高評価を得て、また三菱商事における、新しい社会貢献活動の形として、多くの期待を持った結果で終わることができました。

【2】行政・中間支援組織との協働

東京都福祉保健局「東京ホームタウンプロジェクト」

団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、都市部を中心に急速な高齢化が進み、日本はいよいよ本格的な超高齢社会を迎えます。介護・医療などの公的サービスに対する需要が高まるなか、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる「地域包括ケアシステム」の構築が、国を挙げた課題として求められています。

こうしたなか、東京都とサービスグラントの協働により、多様な主体の参画による地域包括ケアシステムの推進を目的とした新規事業「東京ホームタウンプロジェクト」をスタートしました。

スローガンは、“いくつになっても、いきいきと暮らせるまちをつくる”。

東京都内で高齢者を対象に、介護予防や健康増進、サロンやコミュニティスペースの運営、地域の見守り活動、身の回りのサポートなどさまざまな活動に取り組む24の地域団体・NPO・社会福祉法人等に対して、団体の基盤強化につながるプロボノ支援を行いました。

支援を受けた団体や地域包括支援センター・社会福祉協議会等の中間支援組織から大きな手応えを感じる声が上がるとともに、プロボノワーカー自身も、高齢化の問題を自分事ととらえる貴重な機会になったという声が聞かれました。

プロジェクトの進捗状況や東京の街々で繰り広げられるさまざまな地域づくりの取り組みは、特設サイト（<http://hometown.metro.tokyo.jp/>）をぜひご覧ください。

川崎市

市民自治のまちづくりを推進する川崎市との協働で、企業人やアクティブシニア等の経験やスキルを、NPO・地域団体の活動支援や活動のステップアップにつなげる人材マッチングのモデル事業としてプロボノ体験イベント「プロボノサマーチャレンジKAWASAKI 2015」を実施しました。

川崎市内で活動する11団体に、49名の企業人等がビジネススキルや専門知識を市民活動に還元しました。

鳥取県・とっとり県民活動活性化センター

公益財団法人とっとり県民活動活性化センターと協働により、2015年度は合計2団体を「ふるさとプロボノ」でサポートしました。

また、東京・大阪で「とっとりプロボノフェスティバル2015」を開催し、鳥取県のNPOや地域団体とつながるワークショップや交流を行いました。

大阪市生野区

今年度は、1件のプロジェクトと広報研修会を実施しました。プロジェクトでは、東桃谷地域まちづくり協議会の広報に関する事業計画立案を行いました。



東京ホームタウンプロジェクトウェブサイトでは、各プロジェクトを記事化して紹介しています



2015年度は長期プロジェクトで9団体、短期プロジェクト「プロボノ1DAYチャレンジ」で15団体を支援



川崎市内で活動する11団体を、49名のプロボノワーカーで支援



広報を運営する上での役割分担やルール作りについてディスカッション

5 | 国際的ネットワークと情報発信

グローバル・プロボノサミット 2016

2016年3月7日～10日

シンガポールで開催された、第4回グローバル・プロボノサミットに参加しました。毎回拡大するこのイベント、今回は初の6大陸すべてから参加者が集まり、企業、財団等104名が集結しました。

サミットは、世界のプロボノムーブメントをリードするTaproot Foundation（米国）とBMW Foundationが共催しており、プロボノ運営団体だけではなくグローバル企業担当者や財団などのパートナーも参加しました。

今回は、プロボノが「企業」に与えるメリットを明らかにし、どのようにプロボノを活用してもらうかというテーマを中心に、各地域での成功事例を共有したり、具体的に展開するための課題などをディスカッションするプログラムが多数用意されていました。また、「東京ホームタウンプロジェクト」や「ママボノ」に対するグローバルな関心も高く、日本がグローバルに先行して貢献できる領域が明確になり、情報発信の必要性を感じる機会となりました。



グローバル・プロボノサミット2016
世界各国のプロボノ運営団体、企業、財団等
104名が参加しました。

アジア・プロボノラリー 2015

2015年11月7日～9日

北京で行われた第2回Asia Pro Bono Rallyへ参加しました！2014年、東京渋谷でサービスグラントが主催したのを皮切りに、アジアのプロボノ支援団体が互いのネットワークを強化しながら、相互に刺激し合いプロボノをさらに盛り上げよう！というムーブメントが、ますます盛り上がっています。また、視察や事例紹介等のプログラムを通して、中国におけるソーシャルな活動の興隆を肌で感じ、NGOや中間支援、社会的企業のダイナミック、かつ、質の高い活動に触れることができました。最終日の代表者会議では、各団体の今後の具体的なアクションを協議し、このネットワークを生かした大胆な施策を展開しようと、みなで決意を新たにしました。



北京で開かれたアジア・プロボノラリー
2015には、韓国、シンガポール、タイな
どのプロボノ運営団体に加え、中国国内か
らも多数のNPO・財団等が参加しました。

国際的プロボノキャンペーン「プロボノウィーク」に参加

プロボノウィークとは、世界各地でプロボノに関するイベントやセミナー等を集中開催し、プロボノに対する社会的関心を高めるグローバル・キャンペーンです。期間中、東京・大阪で3回連続の「プロボノ1DAYチャレンジ」を実施したのを始め、プロボノフォーラムなど各種イベントを集中開催しました。日本から世界に向けて、アクティブなプロボノプロジェクトの様子をリアルタイムで発信することができました。



プロボノフォーラムOSAKA 2015

2015年10月31日

プロボノを実体験したプロボノワーカーやNPOによる事例発表を中心に、プロボノの魅力や醍醐味を伝える「プロボノフォーラム」。2009年の第1回以来毎年開催しており、2015年度は大阪で開催しました。

2015年度はプロボノ前後の「変化（Change）」に注目し、プロボノプロジェクトに参加したことがきっかけで大きな変化を遂げたワーカーへのインタビューや、長期プロジェクトの事例報告ではプロボノワーカー、支援先NPOにどのような変化が起きたのかを紹介しました。会場のあべのハルカスには、合計110名の参加者が集まり、会場は熱気に包まれました。



フォーラムでは、当日日中開催された、
プロボノ1DAYチャレンジの成果報告
が行われました。

メディア掲載一覧

新聞	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本経済新聞（首都圏版） 2015年5月16日 ◆立川経済新聞（Web版） 2015年5月26日 ◆毎日新聞（東京版） 2015年7月29日 ◆日本経済新聞 2015年8月16日 ◆日本海新聞 2015年11月14日 ◆大阪日日新聞 2016年3月13日
ラジオ	<ul style="list-style-type: none"> ◆J-WAVE Acoustic Country 2015年4月2日放送
雑誌・専門誌	<ul style="list-style-type: none"> ◆AERA No.20 ◆人事実務 2015年6月号 ◆環境ボランティアなび2015 ◆おはよう21 2015年9月号 ◆日経グローバル No.273 2015年8月3日 ◆織研新聞 2015年8月25日 ◆日経消費インサイト 2015年10月号 ◆環境新聞 2015年12月2日 ◆Recruit Works Institute No.133 ◆織研新聞 2016年3月8日
テレビ	<ul style="list-style-type: none"> ◆関西ケーブルテレビ 関西TODAY 2015年4月13日放映

講演実績

講演	<ul style="list-style-type: none"> ◆所沢市市民活動支援センター 2015年8月29日 ◆住宅メーカー勉強会 2015年9月15日 ◆かながわコミュニティカレッジ 公開講座 社会人のボランティア 2015年9月19日 ◆大阪デザインセンター SEMBAサロン 2015年10月30日 ◆川西市 ひと・まちおこしセミナー 2015年12月10日 ◆箕面国際交流協会 2015年12月11日 ◆はたらく場研究所 最高の居場所ライブ 2015年12月19日 ◆新宿NPO協働推進センター 2016年2月13日 ◆掛川市まちづくり協働センター 2016年2月28日
----	--

▼日本経済新聞 2015.8.16 仕事の技で新・社会貢献 「プロボノ」で自分磨き



▼毎日新聞（東京版）2015.7.29 だいある〜ぐ 東京彩人記 支援先の地力向上に喜び



▼研鑽新聞 2016.3.8 人材研修、「他流試合」へ



6 | 会計報告

2014年度 2014年10月1日～2015年9月30日の活動計算書は以下の通りです。

科	目	金	額
I	経常収益		
1	受取会費		
	正会員受取会費	20,000	20,000
2	受取寄付金		
	受取寄付金	1,210,998	1,210,998
3	事業収益		
	サービスの提供を通じたNPO支援事業	1,216,889	
	企業・行政等との連携によるプロモーションの運営事業	36,145,672	
	プロモーションの運営を担う人材育成事業	434,080	
	プロモーションの普及・広報・社会的制度化に関する事業	3,249,659	
	その他目的を達成するために必要な事業	0	41,046,300
4	その他収益		
	受取利息	1,702	1,702
	経常収益計		42,279,000
II	経常費用		
1	事業費		
	(1)人件費		
	給料手当	12,958,183	
	人件費計	12,958,183	
	(2)その他経費		
	外注費	9,709,581	
	会議費	1,301,640	
	交際費	468,592	
	旅費交通費	4,037,258	
	通信運搬費	157,054	
	消耗品費	375,263	
	新聞図書費	160	
	印刷製本費	221,466	
	租税公課	49,866	
	支払手数料	901,027	
	研修費	1,000	
	その他経費計	17,222,907	
	事業費計		30,181,090
2	管理費		
	(1)人件費		
	役員報酬	3,288,000	
	賞与	238,000	
	法定福利費	2,080,649	
	福利厚生費	24,864	
	人件費計	5,631,513	
	(2)その他経費		
	外注費	143,640	
	会議費	4,000	
	旅費交通費	1,080	
	通信運搬費	331,844	
	消耗品費	329,184	
	支払手数料	955,890	
	地代家賃	1,803,272	
	賃借料	88,200	
	保険料	12,000	
	租税公課	1,492,800	
	減価償却費	549,512	
	その他経費計	5,711,422	
	管理費計		11,342,935
	経常費用計		41,524,025
	税引前当期正味財産増減額		754,975
	法人税、住民税及び事業税		70,000
	当期正味財産増減額		684,975
	前期繰越正味財産額		4,037,520
	次期繰越正味財産額		4,722,495

7 | 役員・スタッフ紹介

事務局所在地

東京事務局（団体本部）

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-6-3-502
TEL 03-6419-4021
FAX 03-6419-3885

関西事務局

〒541-0055
大阪市中央区船場中央1-3-2-302
船場センタービル2号館3階
(大阪市コミュニティ協会大阪都市コミュニティ研究室内)
TEL 06-6210-4832
FAX 06-6125-3315

役員

理事

生駒 芳子
川淵 恵理子
嵯峨 生馬（代表）
中野 宗

監事

石原 英樹

特別顧問

奥山 俊一

フェロー

河田 浩司

スタッフ

東京事務局

小林 智穂子
岡本 祥公子
宮坂 奈々
樫尾 直美
津田 詩織
皆川 陽香
岩淵 美華
小泉 英治朗
三宅 達夫
井上 みき
角永 圭司郎

関西事務局

中村 理恵
堀 久仁子
吉山 朋宏

賛助会員のご案内

この報告書でも掲載している通り、サービスグラントでは、企業・行政・財団との協働プロジェクトを通じて、プロボノの展開とともに、団体の財政基盤を確保しながら活動を続けています。

しかしながら、この報告書に記載したプロジェクト総数86件のうち、31%に相当する27件は、特に財政的な裏付けはありませんが、社会課題解決に寄与するNPOの支援につながると考え、プロボノプロジェクトの立ち上げ・運営を行っています。

こうした自主事業を支える仕組みが賛助会員です。

サービスグラントによるプロボノを通じて、支援先となるNPO・ソーシャルセクターにインパクトのある支援を提供することを、ぜひみなさまに応援していただけたら幸いです。

賛助会費は、**1口3,000円/年** から。

お支払いは、クレジットカード・銀行振込で受け付けています。

なお、サービスグラントは、寄付者の皆様に寄付金額の一部が税額控除が受けられる「認定NPO法人」を取得しています。

▼詳しくは、こちらのページをご覧ください。

<http://servicegrant.or.jp/aboutus/support.php>

